

8 山 岳 総 合 セ ン タ ー

(1) 職員組織

所長 1 専門主事 1 主幹(出納員) 1 臨時特別嘱託員 2

(2) 施設の概要

教室・講堂・体験室・図書室・談話室・宿泊室(9室64人収容)・食堂・浴室・装備室・応接室・事務室・予備室・その他(附属施設 人工岩場)

(3) 事業実績

山岳に関する研究及び調査並びに健全な登山に関する教育事業を実施した。
各講座の実施状況は以下の通り。

No	講 座 名	募集 定員	応募 者数	受講 者数	うち 県内	性 別		年 代 別 構 成					
						男	女	～19	20代	30代	40代	50代	60～
学1	長野県高等学校登山研修会	15	21	21	21	21		17			1	2	1
学2	集団登山引率者研修会	30	13	11	11	7	4		1	5	4	1	
学3	小・中学生クライミング教室	20	43	41	31	28	13	24		4	11	1	1
学4	高校生クライミング研修会	25	18	17	17	17		13			3	1	
共5	登山の基礎講座Ⅰ「医学、自然保護、遭難事例、読図」	40	54	53	36	32	21		10	17	12	10	4
共6	登山の基礎講座Ⅱ「冬山の登山計画、装備、食料、天気図の読みとり」	40	81	53	33	35	18	2	10	22	10	5	4
共7	岩登りとスポーツクライミング	25	52	30	18	25	5		3	11	12	4	
生8	山で役立つ救急法 (リーダーコース生)	25	44	21	14	11	10		3	10	4	3	1
生9	雪上技術講習会Ⅰ	35	45	36	17	25	11		3	18	9	5	1
生10	雪上技術講習会Ⅱ	26	30	27	15	16	11		3	14	5	4	1
生11	初めての山登り	25	25	23	10	13	10		2	4	5	7	5
生12	夏山登山の危急時対策Ⅰ (リーダーコース生)	26	24	22	13	12	10		3	11	4	3	1
生13	夏山登山の危急時対策Ⅱ (リーダーコース生)	26	26	25	13	16	9		4	13	4	3	1
生14	冬山講習会 「雪山の歩行と雪洞の作り方」	35	68	35	19	21	14	1	7	13	7	5	2
生15	リーダーコース修了研修 (リーダーコース生)	26	26	23	13	13	10		3	12	4	3	1
生16	講師研修会Ⅰ(夏山)	30	20	18	16	15	3			4	6	4	4
生17	講師研修会Ⅱ(登山案内人)	15	4	4	4	4				1	1		2
生18	講師研修会Ⅲ(冬山)	30	59	53	43	41	12		3	13	18	12	7
合 計		494	653	513	344	352	161	57	55	172	120	73	36

※No欄 「学」:学校体育研修講座、「共」:学校体育・生涯スポーツ共通研修講座、「生」:生涯スポーツ共通講座

(ア)学校体育研修講座

(◎実技主任講師 ☆座学講師)

※受講率=受講数÷定員×100

講座名(日数)	期日	場所	受講対象/定員				
長野県高等学校登山研修会 (2日)	5月15日(土) ～16日(日)	センター 針ノ木雪渓	高校山岳部員と顧問 15名				
【高等学校の山岳部、登山部、アウトドアクラブなど野外活動を主目的とする部活動の生徒および指導者が、雪上での歩行技術(夏山の雪渓通過技術等も含む)およびテント設営などの基礎的な技術を習得する。】							
申込数	受講数	男(顧問)	女	県内	県外	受講率	◎ 今滝 郁夫 大西 浩 傘木 靖 古幡 和敬
21	21	21	0	21	0	140%	
土、日の2日間で実施。 1日目は、開講式の後扇沢に入山し、テント設営後、雪上歩行中心の訓練を行った。 2日目は、フィックスロープ訓練等を行いながら、針ノ木峠まで登り下山した。							
講座名(日数)	期日	場所	受講対象/定員				
集団登山引率者研修会 (2日)	6月18日(金) ～19日(土)	センター	長野県学校教職員 市町村担当者 30名				
【集団登山に必要な知識や技術を、実際の登山を通して身につけるとともに、生徒の意欲の問題や身体に関する不安を研究協議によって解消する。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 中川 恵市 傘木 靖 古幡 和敬
13	11	7	4	11	0	37%	
1日目は、中川講師より、「山の魅力と安全」の講義を行った後、安全確保技術(搬送の仕方、ツェルトの張り方、ロープの結び方、フィックスロープの設置と通過等)の実技と、「安全で楽しい」集団登山に向けての研究協議を行い、さらに古幡講師より救急法の講義を行った。 2日目は猿ヶ城登山を計画していたが、大雨警報が出ていたために前日の時点で中止を決定。体験室で、救急法、搬送の仕方、トランシーバーの使い方等について講義、実習を行った。							
講座名(日数)	期日	場所	受講対象/定員				
小・中学生クライミング教室 (1日)	8月1日(日)	センター人工岩場 センター	小中学生の初心者及びその 保護者 20名				
【人工壁のクライミング体験を通して、安全な岩登りの基礎的な知識や技術を身につけ、山や岩を登る楽しさを味わう。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 森山 義雄 傘木 靖 古幡 和敬 長山協中信支部
43	41	28	13	31	10	205%	
人工岩場会場では、森山講師がハーネスの付け方・ロープの結び方、基本的な登り方と降り方・注意事項等をデモンストレーションを交えて行った。その後、外壁・内壁を登った。保護者にはロープの確保についても講習した。 ボルダリング壁会場では、講師が登り方を説明して、参加者が自分のレベルにあったルートに登った。グループの半数は山岳博物館の見学を行った。							

講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
高校生クライミング研修会 (2日)		9月4日(土) ～5日(日)		センター センター人工岩場		高校生山岳部員、顧問 一般高校生、 25名	
【生徒:クライミングを楽しむとともに、登るための技能の向上。 顧問:登るための技能の向上および生徒に安全かつ意欲的にクライミングをさせるための指導力の向上。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 堀江 謙一 傘木 靖 古幡 和敬 長山協シニア委員
18	17	17	0	17	0	68%	
1日目は、傘木専門主事からクライミングの基本と用語について講習した後、センターの人工岩場へ移動し、内壁と外壁を使ってトップロープクライミングの練習をした。センターに戻ってから堀江主任講師より顧問対象にクライミングの指導方法、全員対象にムーブと練習方法について講義と実技の指導があり、その後全員でボルダリングを行った。 2日目は、自己課題に応じた練習およびリードクライミングの練習を行った。昼食後、「個人対抗コンペ」を実施し、盛り上がった。							

(イ)学校体育・生涯スポーツ共通研修講座

(◎実技主任講師 ☆座学講師)

※受講率=受講数÷定員×100

講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
登山の基礎講座Ⅰ(座学) (2日) 「登山の医学、自然保護、遭難事例、読図」		7月3日(土) ～4日(日)		センター		リーダーコース生 一般 40名	
【登山における体のはたらきと病気やけがの手当て、自然保護の現状、遭難事例から学ぶこと、地図の読み取りについての講義、また読図やビバーク技術、簡単なロープワークの実習を通して、安全で有意義な登山を行うための基礎的な知識や技能を身につける。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	☆ 飯田 泰人 ☆ 宮澤 正 ☆ 富樫 均 ☆ 浮須 由実 傘木 靖 古幡 和敬
54	53	32	21	36	17	133%	
1日目は古幡講師による「山で役立つ救急法」の実技指導を行った後、宮澤講師による「遭難事例から学ぶ」の講義を行った。次に、ビバーク技術と簡単なロープワークの実習があった後、飯田講師の「登山の生理学、体力、高山病」及び「登山中の危険な症状と対処」の講義を行った。 2日目は、富樫講師による「自然保護の現状」の講義の後、浮須講師から「地図の読みとり」について講義を行い、屋外に出て「地図とコンパスによる現在位置の確認」の実習を行った。							
講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
登山の基礎講座Ⅱ(座学) (2日) 「冬山の登山計画、装備、食料、天気図の読み取り」		12月4日(土) ～5日(日)		センター		リーダーコース生 一般・夏山登山経験者 40名	
【冬山の登山計画の立て方や登山に必要な装備と食料について学ぶとともに、雪崩ビーコンの使い方や 天気図の読み取りについて知識を深めることによって、安全で有意義な冬山登山を行うための基礎的な力を身につける。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	☆ 城所 邦夫 ☆ 榛葉 伸男 傘木 靖 古幡 和敬
81	53	35	18	33	20	133%	
1日目は榛葉講師より講義と実習を行った。冬山全般および冬山登山計画の立て方について講義を行った後、2グループに分かれて、雪崩対策の講義とビーコン訓練をした。ビーコン訓練は天気も良く屋外で実施できた。1日目の最後は、冬山に必要な装備と食料については、講師が実際の装備品を提示し説明をした。 2日目は城所講師より「天気図の読み取り」についての基礎的な講義の後、冬山の天気、高層天気図、雷、観天望気等について講義を行った。							

講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
岩登りとスポーツクライミング (2日)		11月6日(土) ～7日(日)		センター センター人工岩場 物見の岩		一般・初心者 25名	
【「岩登り」と「スポーツクライミング」の基礎的な知識や技術を学んだり体験したりすることにより、「クライミング」の楽しさを味わうとともに、安全確保についての考え方を身につける。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 森山 議雄 水谷 剛生 羽山 菜穂子 傘木 靖 古幡 和敬
52	30	25	5	18	12	120%	
1日目は、「クライミングの基礎知識」の講義の後、人工岩場においてロープの結び方等基本的な事を行い、グループ毎各壁面をトップロープで登ること・確保の練習・懸垂下降・簡単なリードクライミングを行った。夕方はセンターで、クライミングの危険や安全、人工壁と自然の岩場の違いについて主任講師の講義と、懸垂下降とセカンド確保について主任講師の講義および実技講習を行った。 2日目は、物見の岩へ行き、支点作りと懸垂下降、セカンド確保およびトップロープでのクライミングを行った。							

(ウ)生涯スポーツ共通研修講座

(◎実技主任講師 ☆座学講師)

※受講率＝受講数÷定員×100

講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
山で役立つ救急法 (3日) (リーダーコースのみの講座)		4月16日(金) ～18日(日)		センター		リーダーコース生/25名 (日赤救急員資格のある方を除く)	
【平成22年度リーダーコースの開講にあたってオリエンテーションを受け、1年間の心構えを持つとともに、山で役立つ救急法(登山活動中の病気やけがに対して、必要な救急処置の方法を学び、日赤救急員資格を取得する。)を学ぶ。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 古幡 和敬
44	21	11	10	14	7	84%	
古幡講師が、配布した教本、実際の山での遭難事例、平地で見聞した事例等を出しながら講義と実技指導を行った。 3日目には実技と筆記の試験を行い、全員日赤救急員資格を取得できた。							
講座名 (日数)		期 日		場 所		受講対象/定員	
雪上技術講習会 I (3日) 「ピッケル・アイゼンとロープによる確保技術」		5月14日(金) ～16日(日)		センター 針ノ木雪渓		リーダーコース生 一般・雪山初心者(60歳以下) 35名	
【残雪期登山に必要な、アイゼンとピッケルの使い方やロープによる確保技術を学んだり、雪上での幕営生活技術を身につけたりすることを通して、春の雪山を知り楽しむ。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 山田 正充 村田 健治 榛葉 伸男 中村 和義 杉田 浩康 栗原 久 傘木 靖 古幡 和敬
45	36	25	11	17	19	103%	
1日目は、山田講師が「残雪期の登山の基本と必要な技術」について教本を使って講義を行った。午後は、班会や買い出し、班毎による準備を実施。 2日目は針ノ木雪渓に入り、大沢小屋周辺にテントを設営後大沢で雪上歩行の訓練を中心におこなった。天候にも恵まれ予定通り訓練を実施。 3日目も好天に恵まれ、予定通り下山。							

講座名(日数)	期 日	場 所	受講対象/定員
雪上技術講習会Ⅱ(2日) (リーダーコースのみの講座)	5月29日(土) ～30日(日)	針ノ木雪溪	リーダーコース生 26名

【雪上技術講習会Ⅰの技術確認をするとともに応用力を養う。】

申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎村田健治 榛葉伸男 中村和義 杉田浩康 栗原 久 杉木 靖 傘木 靖 古幡和敬
30	27	16	11	15	12	104%	

1日目は、扇沢駅に集合し、針ノ木雪溪に入山後、雪上技術講習会Ⅰの実技復習(雪上歩行技術、滑落停止技術、ロープワーク等)を行った。
夜は、予定通り、ビバーク訓練を実施。天候にも恵まれた。
2日目も好天に恵まれ、総合的な訓練を行った。

講座名(日数)	期 日	場 所	受講対象/定員
初めての山登り(3日)	10月15日(金) ～17日(日)	センター 爺ヶ岳	一般・初心者(65歳以下) 25名

【これから登山を始めようとする者が、登山計画の立案、装備や食料の準備、登山道の歩き方、休憩の取り方、山小屋での過ごし方等基礎的な登山技術を学び実践しながら秋山を楽しむ。】

申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎杉田 浩康 水谷 剛生 傘木 靖 古幡 和敬
25	23	13	10	10	13	92%	

1日目はセンターにて杉田講師が「登山の基礎」について講義をした後、班毎に登山計画書の作成と概念図の作成、地図の見方、装備点検等の実技を行った。
2日目は、貸切バスで扇沢に移動し、班毎に、柏原新道から歩き方、休み方、地図による現在位置の確認、フィックスロープの通過などを研修しながら爺ヶ岳(南峰)に登頂し種池山荘に宿泊した。
3日目は、柏原新道より下山しセンターにて昼食、片付けをして解散した。

講座名(日数)	期 日	場 所	受講対象/定員
夏山登山の危急時対策Ⅰ (3日) (リーダーコースのみの講座)	7月17日(土) ～19日(月)	センター センター人工岩場 七倉沢	リーダーコース生 26名

【夏山における支点の作り方、確保技術、危険箇所の通過、ビバーク方法をみにつける。】

申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎村田 健治 榛葉 伸男 中村 和義 栗原 久 傘木 靖 古幡 和敬
24	22	12	10	13	9	85%	

1日目は、村田講師から「危急時対策と確保理論」の講義を受けた後、人工岩場にて懸垂下降訓練およびタイヤ落としによる確保訓練を行った。
2日目は、七倉沢に入山し、班毎に支点の構築や確保の訓練を行った後ビバークした。
3日目は、確保訓練、懸垂下降訓練、渡渉等を繰り返した。

講座名(日数)	期 日	場 所	受講対象/定員
夏山登山の危急時対策Ⅱ (2日) (リーダーコースのみの講座)	9月25日(土) ～26日(日)	七倉沢	リーダーコース生 26名

【夏山における危険箇所の通過、ビバーク、負傷者の搬出方法等を身につける。】

申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎村田健治 榛葉伸男 杉田浩康 中村和義 栗原 久 傘木 靖 古幡和敬
26	25	16	9	13	12	96%	

1日目は、七倉駐車場に集合し、七倉沢に入山。最終堰堤の上部河原をビバーク地として荷物をデポし、救急法の実技のあと、周辺の岩場で支点構築や渡渉、懸垂下降の訓練を行った。
2日目は背負い搬送、松葉杖、担架、索道による搬送などによる搬送の訓練を行った。

講座名(日数)	期 日	場 所	受講対象/定員
冬山講習会(4日) 「雪山の歩行と雪洞の作り方」	2月10日(木) ～13日(日)	センター 黒沢尾根	リーダーコース生 一般・夏山登山経験者(60 歳以下) 35名

【雪山での歩行や、幕営・雪洞作りなど冬山の基礎的な生活技術を学んだり、冬の自然に触れたりすることにより雪山への理解を深める。】

申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎村田健治 山田正充 杉田浩康 榛葉伸男 中村和義 栗原 久 水谷剛生 傘木 靖
68	35	21	14	19	16	100%	

1日目は、村田講師より冬山登山の基礎についての講義のあと班会議を行った。そのあと班毎食料計画を立案し買い出し、パッキング等を行った。
2日目は鹿島槍スキー場へ移動し、リフト2本乗り継いだ後、安全なルート設定を行いながら行動し、予定地に幕営した。
3日目は地図を見ながらの行動、ロープワーク、雪崩埋没者の探索訓練後、雪洞を作成した(リーダーコースはビバーク雪洞)。
4日目はルート設定、雪質の観察等を行いながら下山した。

講座名(日数)	期 日	場 所	受講対象/定員
リーダーコース修了研修(2日) (リーダーコース生のための講座)	3月5日(土) ～6日(日)	センター センター人工岩場 仏崎の岩場	リーダーコース生 26名

【本年度リーダーコースの全課程を修了する受講生に、リーダーとしてのリーダーとしての自覚と責任を喚起するとともに、登山技術の確認とまとめの会を行う。】

申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎村田 健治 榛葉伸男 中村和義 栗原 久 山口憲夫 傘木 靖
26	23	13	10	13	10	88%	

1日目は、村田講師より「リーダーの責任と自覚」の講義を行った後、人工岩場にてロープワークと懸垂下降の復習を行った。さらに「リーダーコースを終えて」の作文を書き、最後に1年間リーダーコースを受講しての疑問点や個人の課題を出し合う意見交換会を行った。
2日目は、仏崎の岩場周辺で確保技術、懸垂下降技術等の確認を行いながらの総合登攀訓練を行った。訓練終了後センターに戻り、修了式をして1年間を締めくくった。

講座名(日数)		期日		場所		受講対象/定員	
講師講習会Ⅰ(夏山)(2日)		8月28日(土) ～29日(日)		センター人工岩場 七倉沢		センター研修講座講師 山岳会指導者・山岳関係者 30名	
【無雪期における危急時対策訓練により、指導者の立場としてこれからの山行や研修会をより安全なものとする。 「懸垂下降技術とその指導法についての検討」を特設して行う。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 伊澤 則昭 高橋 政男 傘木 靖 古幡 和敬
20	18	15	3	16	2	60%	
1日目は人工岩場にて開講式をしてから研修開始。各班毎計画に従い、懸垂下降に関する研修を行った、研修のまとめをしたあと、夕方七倉沢に移動し夜はビバークを行った。 2日目は、七倉沢で各班の計画により危急時対策訓練の研修を行った。							
講座名(日数)		期日		場所		受講対象/定員	
講師講習会Ⅱ(登山案内人)(2日)		9月10日(金) ～11日(土)		センター 仏崎の岩場 七倉沢の岩場		登山案内人研修(実技)の講師 15名	
【信州登山案内人能力向上研修(実技)で講師を務めるため、登山案内人に必要な安全確保技術について共通認識を深める。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 村田 健治 傘木 靖 古幡 和敬
4	4	4	0	4	0	27%	
1日目は、村田講師より「確保理論」の講義の後、仏崎の岩場に移動して確実な支点作りと場に応じた確保、懸垂下降の実習等を行った。さらにセンターにもどり、転・滑落を防ぐ方策について研究協議を行った。 2日目は七倉沢の岩場にて、フィックスロープの設置と回収、救急法と搬送等についての実技研修を深めた。							
講座名(日数)		期日		場所		受講対象/定員	
講師講習会Ⅲ(冬山)(2日)		1月22日(土) ～23日(日)		センター 旧大町中山スキー場 黒沢尾根		センター研修講座講師 山岳会指導者・山岳関係者 30名	
【講師としてまたは山岳関係のリーダーとして、雪質観察や雪崩埋没者の捜索救出訓練・搬送訓練をどう展開したらよいか検討することを通して、資質を高める。】							
申込数	受講数	男	女	県内	県外	受講率	◎ 東 秀訓 傘木 靖 古幡 和敬
59	53	41	12	43	10	177%	
1日目はセンターで講義を受けた後、旧大町スキー場に移動して、ビーコンの特性等を検証する実技。センターに戻ってからは、班別及び全体協議。 2日目は、鹿島槍スキー場から黒沢尾根にとりつき、6班に分かれて雪質の観察、弱層テスト、雪崩埋没者捜索訓練、搬送訓練などを行い、班毎で検討を加えた。							